

普及活動検討会実施報告書

石巻農業改良普及センター
実施月日：令和8年9月1日
実施場所：石巻合同庁舎302会議室

1 検討内容

No	検 討 項 目
1	プロジェクト課題の取り組み状況について
2	トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築
3	深谷東地区における担い手法人設立による営農体制の確立
3	水稻乾田直播栽培導入生産者の早期技術習得による収量向上

2 検討委員の構成 (単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市 町 村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No. 1	4.0	①防除技術導入の成果と継続的な支援 0.4mm 防虫ネットや天敵の導入効果を確認し、実証的な知見が得られたこと、粘着テープや補虫器を含む複数の防除対策を試行導入して地域の防除技術向上に寄与したことは評価できる。農薬散布時の噴口・圧力設定、葉裏への付着など、生産者によって技術にばらつきが見られるため、継続的な声かけやアドバイスをお願いしたい。 ②効果検証・費用対効果 防虫ネット、天敵昆虫、粘着テープ、補虫器の4つの防除対策について、どの対策が最も効果的であったか、どの組み合わせが有効であったかを定量的に示すことで、さらに実効性のある対策の選択が可能になると考える。防除対策の費用対効果を検証し、生産者が自らの経営状況に応じて適切な対策を選択できるよう情報提供をお願いしたい。 ③生産者・地域への啓発 家庭菜園者向けチラシの掲示や広報記事による周知など、地域全体	・技術にばらつきが見られる噴口・圧力設定、葉裏への付着徹底については、今年度後半の活動の中で周知していくとともに、防除マニュアルにも記載します。 ・各作型で4つの防除対策のどの組み合わせが有効なのかがわかるよう、防除マニュアルに記載します。防除マニュアルには各対策の費用を記載し、生産者が費用対効果から導入を検討できるようにします。 ・令和8年度に初めて、地域内の主要ホームセンター店

		での啓発活動は評価できる。一般消費者が苗を購入する際に黄化葉巻病の存在を認識できるよう店頭での声がけなどがあればなお良いと思う。 ④マニュアル整備・横展開 黄化葉巻病は、現時点では大きな被害は発生していないものの、依然として予断を許さない状況であるため、万全な対策に向けた防除マニュアルの取りまとめをお願いしたい。また、作成したマニュアルは県内の他普及センターへ横展開し、地域全体、県内全域の対策につなげてほしい。	頭での黄化葉巻病注意喚起チラシの掲示に企業から協力を得ることができました。令和9年度はこの取り組みを一步進めて、店頭での店員の方からトマト苗購入客への声がけについても、企業に協力を相談します。 ・当プロジェクト課題の活動で得られたタバココナジラミの発生傾向や防除対策に関する知見は、県内でも最初の生産現場での広範かつ詳細な知見と思われます。それらを紹介した防除マニュアルの地域内への配布と周知により万全の対策を目指すとともに、他普及センターに横展開を行い、県内全域での対策強化につなげるようにします。
No. 2	3. 8	①若手参入・将来を見据えた法人づくり 担い手法人の設立による持続可能な営農体制の確立は、地域農業が抱える課題解決に向け意義のある活動。話をまとめるのが難しい中、丁寧に良い方向へ進めている点は評価できる。構成員の高齢化が進んでおり、中長期的な担い手確保が困難になることが確実視されるので、現在の構成員の年齢一覧を作成し、10年後・20年後の年齢構成を可視化することで課題を再認識すべき。また、若手が参加しやすく継続できる支援体制も必要だと思う。後継者2名が予定されているが、本人意向を再確認することや、継承が困難になるケースも想定しておくべき。 ②法人形態の選択と経営理念の明確化 将来、この地域で農業をしたいと思えるような若い人材の確保につながる法人であることを期待する。法人形態は農事組合法人に限定せず、株式会社・合同会社・一般社団法人など、将来的な外部雇用の必要性も踏まえて法人形態を検討する余地がある。法人運営の成否は、経営理念が構成員に定着しているかに左右される。設立に向けた話し合いの中で、ミッション・ビジョン・バリューを明確化していくことが求められる。法人設立はゴールではなくスタートであることを組合員に認識してもらい、法人化前後に行うべきことや税金対策等も考えるよう指導してほしい。	・法人化に向けた話し合いの場で、10年後・20年後の組合員の年齢構成表や、10年後の組合員の年齢に置き換えたアンケート結果を示すなど、中長期的な担い手確保の必要性を認識できるようにしていきます。アンケートで明らかになった後継者候補2名については、今後見込まれる組合員への再調査において意向を再確認します。仮に当面の後継者候補がいなくなった場合にどう対応するか、ビジョン骨子を策定する中で検討課題としていきます。 ・上記と関連して、中長期的な担い手確保の観点から、法人形態についてよく検討するよう、また、ビジョン骨子策定作業において、法人のミッション・ビジョン・バリューを明確化するよう働きかけていきます。法人化に伴い必要になる事項や税務については、専門家による支援を検討しています。

		③高収益作物への取り組み 高収益作物の支援について、土壌診断・先進農家からの指導・作付拡大の取り組みが進んでいる点は評価できる。高収益作物は主食用米からの作付転換として必要であり、今後も継続した支援を期待する。	・法人経営において高収益作物部門が定着するよう、引き続き支援していきます。
No. 3	3. 8	①課題整理・計画設定と技術習得支援 乾田直播の技術習得について、対象それぞれの課題が整理され、安定生産に向けた計画設定や支援体制となっており良いと思う。経営の大規模化が進む中で、スマート農業との組み合わせは有望な手法であると思うので、省力化が図られ十分な収量が確保できるよう、引き続き情報提供、支援をお願いしたい。また、その際、成功事例だけでなく、失敗事例を収集して「なぜ失敗したのか」を分析して周知することも効果が高いと考えられる。 ②労働力不足への対応 乾田直播は、高齢化による労働力不足に直面する農家にとって、最も求められる技術になると考えられ、本プロジェクトも注目度が高く、成果が与える影響も大きいものになる。一連の作業を分解し、スポットワークや短期雇用が活用できるような作業の洗い出しにも取り組まれることに期待する。	・スマート農業技術の導入により、画像等で生育状況が理解しやすくなり、生育に応じた施肥管理も可能になるなど、省力化と収量向上に有効な技術として、今後も推進してまいります。 ・失敗事例の収集やその原因の分析は、技術の改善に非常に重要なことで、本課題でも各対象の課題を整理し、改善に向けて活動を進めてまいりました。今後、新たな課題も発生することが考えられますので、事例の収集や活用に努めてまいります。 ・乾田直播栽培は機械化体系が確立した技術で、移植栽培よりも少ない労働力で対応できるものと考えておりますが、導入経営体において労働力不足が問題となる場面等について、今後確認していきます。
重点活動 その他		異常気象については、作物全体の喫緊の課題となっている。また、令和9年6月末の主食用米民間在庫量が300万トンに迫り、より一層の米価下落が懸念され、高収益作物や麦大豆への作付転換が今後必要となる。関係機関と連携して取り組んでいきたいと考えているので、よろしくお願いしたい。	・今後も関係機関と連携しながら、気候変動に対応した栽培管理・病虫害防除技術、高温に強い品種の普及を図っていくほか、高収益作物や麦大豆の安定生産に向けた支援を行ってまいります。